

# 「伊佐市立山野小学校の石井鎌手踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

伊佐市立山野小学校

## 2 学年・人数

第6学年（14人）

## 3 日時・場所

### （1）練習の日時・場所

平成28年4月～11月 山野小学校体育館

### （2）発表の日時・場所

平成28年11月12日（土） 山野小学校学習発表会

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

### （1）名称

石井鎌手踊り（いしいかまんでおどり）

### （2）由来

1590年，豊臣秀吉が天下統一後の朝鮮出兵（1592年島津義弘公）から帰ってきたときに，伊佐市山野地区の住民が，太鼓踊りなどで歓迎し，出迎えたのが始まりとされている。この頃から鎌手踊りも始まったとされている。終戦後（昭和25年頃）から写真が残されており，その頃は「6尺棒に6尺棒」「6尺棒に鎌」の踊りだった。また，1950年頃には男性不足から女性が踊ったこともある。現在の「鎌と長刀」のスタイルは1960年頃から踊られているようである。

### （3）構成等

鎌2人，長刀2人の4人組が4グループ，合計16人で踊る。鎌は柄の長さ1尺5寸位，柄のつけねのカネには房をつける。長刀は柄が5尺2～3寸。房はつけない。どちらも檜で作る。服装は，白浴衣を着，腰を少し絞り，手甲，脚絆，白足袋，武者ワラジ，タスキ，鉢巻姿。歌詞は前記「今こそ参る」の他に「①清めの雨は，三度パラパラ」「②焼け野の雉は岡の瀬にすむ」というものがあり，引端の道歌は「今こそかへる。神にモノメイ（物詣り）」というのがある。

## 5 保存会や地域との連携の具体

昨年度から総合的な学習の時間を活用し，郷土芸能に関する学習について取り組めないか検討を重ねてきた。保存会は現在，12人ほどの会員で組織されているが，会員の高齢化に伴い，存続か消滅かといった後継者問題に直面している状況であった。年度末に保存会の方々と連絡を取り，毎月10日に行われる定例会に関係職員が参加し，地域の伝統芸能の保存に向け，無理をせず長期的視野に立ち，取り組んでいく方向で共通理解した。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域の伝統芸能継承学習として、総合的な学習の時間の中で「守ろう山野の宝」というテーマのもと、年間54時間の授業を設定した。

主な学習内容は、以下のとおりである。

- 課題を設定する。(3時間)
- 保存会の方から踊りの歴史や伝承活動に対する願いを学ぶ。(3時間)
- 踊りやたすきがけについて実際に指導を受ける。(8時間)
- 調べたことをまとめる。(8時間)
- 学習発表会で発表する。
- 地域に伝わる伝統芸能の継承について学習をする。(22時間)

今後も地域と連携した学習が継続して展開できるように、3学期に、5年生への踊りを継承する時間(3時間)を設ける工夫を図った。

## 7 取組の様子(練習状況、発表の場等)



(保存会の方々による指導風景)



(学習発表会での発表)

## 8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【参加児童】

地域に伝わる鎌手踊りを学習し、学習発表会で紹介ができてよかった。

### 【保存会から】

小学校は地域とのつながりが深く、地域の中心となる。学習に取り入れたいという話をもらった時は、目が覚めたという思いで、指導・継承につなげていきたいと思った。また、短期的なものでなく、長期的な取組としてやっていただきたい。

### 【保護者から】

6年生が地域の伝統芸能を学習することはよい取組だと思う。練習は大変だろうが、学習発表会がよい発表の場となり、また、子どもたちが地域を知るよい機会となったと思う。

### 【教員から】

保存会の方々の地域を盛り上げたいという思いは、体験学習を通して児童にも十分に伝わったと思う。郷土教育の一環として、課題解決的な学習内容となるよう取り組んできた。児童が大人になった時、地域伝統芸能に触れ、それを守り続ける人々の思いを思い出すことがあれば幸いである。